

別紙2 新たに「選定」した建物や庭園

NO	選定番号	区	選定名称	推薦理由（抜粋）
1	第9-026号	右京	ひらいけ 平井家	棚田が美しい越畑に建つ茅葺き屋根の民家で、明治初期に建てられたと伝わる。標高約400メートルの高地である越畑では、近年、村おこしに力を入れている。
2	第9-027号	左京	そのらいぞうきゆうたく 園頼三旧宅	美学者 園頼三（同志社大学教授）の旧宅。洋館と和館は大正時代に建てられ、大きな改変はされていない。現在は頼三の直系の子孫が大切に住んでおられる。
3	第9-028号	東山	ほんぶ 帆布カバン きいちざわ 崑一澤	東大路通に面して建っていた5軒長屋のうち、唯一残った町家。知恩院さんの新門前はビルばかりで昔の姿を残す建物はわずかとなった。後世に残すべき風情を感じられる建物。
4	第9-029号	北	きょうえん 京苑	昭和5年（1930）に建てられた近代和風建築の住宅で、室内の各所には、檜、紫檀、黒檀などの木材が使われている。現在は宿泊施設として活用している。
5	第9-030号	北	ぎょううんそう 暁雲荘	和館、洋館、八角形の茶室、回遊式庭園を持つ近代和風の邸宅。昭和11年（1936）に建てられた。庭園に面してガラスを多用した開放的な空間が特徴。
6	第9-031号	上京	ささやちやういつちやうめちやうないかい ちやういえ 笹屋町一丁目町内会の町家	江戸時代に建てられた町家（ちょういえ）。地蔵盆では正面の平格子を外し、和室にお地蔵様を移してお祀りする。今後も大切に受け継いでいただきたい。
7	第9-032号	上京	にしじんでのうちどおり まちや 西陣寺之内通の町家	織屋建ての町家。ホテルやマンションの建設が増え、失われつつある西陣の歴史的景観と地域文化を継承するために推薦する。
8	第9-033号	左京	やまもとけ 山本家	先祖から受け継がれてきた町家。明治から昭和にかけて料亭として、その後は住居として使われた。京都らしい街並みとして残していきたい。
9	第9-034号	中京	あらかき 荒木家	荒木家の屋敷が禁門の変で焼失したため建てられた住居。京都を破壊から守るため、当時のつくりを残しているこの家を後世に残したく推薦する。
10	第9-035号	中京	ぶそんあんきやうとほんてん 蕪村菴京都本店	六角堂の近くに建つ、与謝蕪村にちなんだおかきの専門店。素朴ながらもどっしりとした存在感のあるつくりで、店内は梁や井戸など昔の風情を残す。

NO	選定番号	区	選定名称	推薦理由（抜粋）
11	第 9-036 号	東山	とくじょうみょういん 得浄妙院	信州善光寺別院として建立された尼門跡寺院。信州善光寺と同形の堂が建つ。門跡の住まいと宮家ゆかりの庭，雅な姿を京都の財産として残したい。
12	第 9-037 号	下京	かめやまけ 亀山家	京都の名工 北村傳兵衛が昭和 3 年（1928）に建てた町家。建てられた当時の姿がほぼ残されており，貴重と思われる。
13	第 9-038 号	下京	やまもとけ 山本家	明治 8 年（1875），山本亡羊読書室跡地に建てられた住宅。主屋の主要な部分と庭は建てられた当時の姿を残す。京都の財産として残したい。
14	第 9-039 号	下京	わかみやちはまんぐう 若宮八幡宮	天喜 5 年（1058）に創建された八幡宮。町民の信仰が厚く，若宮八幡宮祭は若宮町の奉賛会が運営し，神輿渡御は植柳学区の住民から協力を得ている。
15	第 9-040 号	右京	いななみけ 稲波家	築 200 年ほどと思われる茅葺き屋根の民家。町家などと同様に，郊外の歴史的建築物も失われていくスピードが速く感じる。頑張って残していきたい。
16	第 9-041 号	右京	こうじょうけ 高乗家	明治初期に建てられた茅葺き屋根の民家。室内は改装したが茅葺きは残したい。少しでも素敵なふるさとを維持することが私どもの幸せである。
17	第 9-042 号	右京	とくへいあん 徳平庵	茅葺き屋根をトタンで覆うか迷っているが，京北から茅葺き屋根が無くなると，京北がさびれてしまうように思えてならない。
18	第 9-043 号	右京	きゅうう つ ゆうびんきょく 旧 宇津郵便局	戦前に建てられた京北地域の洋風建築として貴重である。
19	第 9-044 号	右京	きゅうなるたきりょう 旧 鳴滝寮	書院造の和館，数寄屋意匠の離れ，スパニッシュ風外観の洋館と広い庭園を有する邸宅。昭和初期における大規模で良質な建築として重要である。
20	第 9-045 号	西京	たにおかけ 谷岡家 (レストラン スポンタネ)	明治に建てられた住宅で，屋久杉などが使われている。昔の間取りのままレストラン兼住宅として使っており，このまま維持継承して後世に伝えたい。

NO	選定番号	区	選定名称	推薦理由（抜粋）
21	第 9-046 号	伏見	いくたけ 生田家	昭和 11 年（1936）に、住宅兼寮として建てられ、現在は、自宅兼宿泊施設として使用している。川沿いの良好な景観を創出している。
22	第 9-047 号	伏見	ももやま 桃山いろは館	大正 2 年（1913）創業の旅館。多くの参拝客や修学旅行生を受け入れた点で、京都における近代遺産として歴史的・文化的価値があると考えられる。
23	第 9-048 号	上京	いりえけ 入江家	土間の吹抜け、オクドさんの残る台所、掘炬燵から見る庭が好き。正月に親族が集まり、茶室と座敷を開け放してお雑煮を食べる。親族にとっても大事な建物である。
24	第 9-049 号	上京	はやしけ 林家	上七軒で最初とも伝わる茶屋「二見屋」を前身とする町家。2階座敷の吉原格子、書院造の表座敷、離れの茶室、中庭など、よく残っている。
25	第 9-050 号	山科	ひわかいだいじんぐう 日向大神宮	新田義貞が戦勝祈願するなど、長い歴史を持つ神社。「京のお伊勢さん」とも呼ばれ、四季折々の美しい境内は市民から愛されている。
26	第 9-051 号	右京	しばたけ 柴田家	大正時代に京都のまちなかから大工を呼び寄せて施工された美しい住宅である。